

会 議 録

1. 付属機関等の会議の名称 第1回 総合基本計画審議会

2. 開催日時 2024年8月29日（木） 18時30分から20時30分まで

3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室

4. 総合基本計画審議会委員（順不同、敬称略）

（出席）

松井 悦子、塩沢 貴浩、星野 光洋、井口 由紀子、細田 勉、田村 健一、
北林 南、熊谷 久美、水野 一昭、宮澤 俊輔、笠原 俊彦、高坂 竜夫、
北沢 公彦、大石 明敏

（欠席）

中平 文夫、松下 敏章、山崎 隆

事務局（まちづくり政策課）

黒澤副町長、松尾課長、大橋係長、元木主任

5. 議題（公開）

- （1） 策定スケジュールと進め方について（資料1）
- （2） 第6次松川町総合基本計画の基本的な考え方について（資料2、資料3）
- （3） これまでの取組み経過報告（資料2）
- （4） 計画の方向性に関する意見交換
- （5） その他

6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

—

7. 傍聴人の数

1名

8. 会議資料の名称

- ・添付のとおり

9. 会議の概要

(1) 開会

(2) 副町長あいさつ

(3) 自己紹介

(4) 正副会長の選出

会長：水野 一昭 副会長：井口 由紀子

(5) 会長あいさつ

(6) 諮問

(7) 会議事項

①策定スケジュールと進め方について

質疑応答

(委員)

スケジュールについてではないですが、この審議会がこれから本日を含めて 4 回ということで、計画をされていたということですが、まずこの審議会について、これ非常に、町のこれから進むべき方向性を決める大事な審議会ということだと思いますけれども、男性と女性の比率が、こう見ますと女性が非常に少なく、4 人ですかね、松川町男女共同参画条例には、計算すると 23.5%になりますが、できれば 3 割以上欲しかったなと思うんですが、そこら辺どんな考えでこういう分配にされたのかなということをお願いします。

(事務局)

今回の総合計画の策定委員会につきましては、どうしても関係団体の方々から一定数入っていただかないといけないことになっておりまして、やはりそのような団体の方々が男性の方が多いため、どうしてもこのような構図になってしまうところは、ご承知おきいただけたらと思います。ただ、自分たちでできるところ、例えば公募でエントリーいただいたりとか、あるいは地域づくり会議から選出するところを今日は女性 2 人で固めておりますし、そういったところで女性の比率を上げていくという努力はさせていただいてるところと、総合計画の策定に当たり、今地域づくり会議でネタ出しをやらせていただいておりますが、こちらは女性の方が半分入っていただいているというところで、計画の原案になってくるところについてはしっかりと女性の方のご意見が入れるような形でやらせていただいておりますので、この場におきましてはこういうメンバーでやらせていただいているというところで、ご承知おきいただけたらと思います。

(委員)

定数は 25 人以内ということですよ。それで現状 17 人ですよ。ここに今入って来られているのは、役職の方が入られていて、それが男性だということをやむを得ないことだと思いますけれども、できればこのメンバーを増やしたりとかですね、女性の方々が参画できるような、そんなことをしていただけるとよかったかなというふうに思います。また、

今回はこれで決定でしょうから致し方ありませんけれども、今後の参考にさせていただけたらなというふうに思います。よろしくお願いいたします。

(事務局)

今回 25 名、そもそもこれまでの審議会は 25 名というところで進めさせていただいたんですが、平成 23 年の方から総合計画は、簡単に言うと実際に作るか作らないかは任せますというところでもあったので、できるだけ会議に出させていただく方を絞った中で開催させていただいております。その中でも地域づくり会議の方は女性の方に半分入っていただいて、全 5 回なんですが出てきていただいて、本当に活発な議論をしていただいているという中で、地域づくり会議の代表の方は女性 2 名に、ここの会議はお願いしていますので、今後他の会議も含めた中でその女性男性のところについては我々も、全然無視するのではなくて、頭の中に入れながら選出はさせていただきたいと思っております。

②第 6 次松川町総合基本計画の基本的な考え方について

質疑応答

(委員)

まちづくりの将来像で、「いっしょに育てよう 一人ひとりが輝く 笑顔あふれるまち まつかわ」というところで、このスローガンを作ったときの会議に私も出ていまして、非常にこれまた大事にさせていただけるということで非常に嬉しく思っております。是非、何ていうかな、得てしてこういうことというのが、アリバイ作りのね、今お話ありましたけどそうなっちゃうところがあるんですが、それをきちんと実現に向けてステップ踏んでいっていただけるってことを、是非しっかりやっていただきたいなと思います。

(事務局)

この「いっしょに育てよう 一人ひとりが輝く 笑顔あふれるまち まつかわ」というところですが、これを今までどうやって測ればいいんだというのがなかなかできてなかったところがあります。多分できているだろうなというところで収まっちゃいけないのですが、なかなかこの、満足度っていうのを得られているかどうかというのを一発でわかるツールがなかったので、そういったようなものも活用しながら、やっぱ時代で進化してきたものを活用しながら、この思いというのを大事に次へ受け継いでいきたいと考えておりますので、またご指導のほどよろしくお願いいたします。

(委員)

将来像で一人ひとりの幸せ実感ってありますね。3つの大きなテーマがありますが、この3つだけで果たして町民全員が一人ひとり幸せになれるのかどうかということ。子育て、この中に他に入れてほしいのは、例えば健康だとか福祉が一番大事だと思いますね。生活していく上で、そういったことが入っていないなと思うのと、あと、そのシゴトづくりというのはどういうことを意味するのか、産業振興なのかそれとも働く場所を確保するのか、という面がちょっとよくわからないんですね。こういった、いわゆる生業に関わる事を果

たしてこういう計画に盛り込むことが妥当なのかどうかということも一つ懸念はされます。行政が手出しをできることでないとなかなか難しいんじゃないかなと思ってます。それから調査結果で 24 因子ってありましたね。その中で、地域との繋がりというのが一番、非常に評価がアンケートより高かったというふうにあったんですが、ホームページに載っている重要度と満足度の調査があるね。この事業は大変重要だけでも満足度は低いだとか、逆に満足度は高いんだけどそんなに重要じゃないといった、確かグラフがあったんです。その中で、重要度、満足度が一番低かったのは、地域共生まちづくりと、持続可能な自治会の運営というのがあって、これでこの地域の繋がりとか何かそういうギャップが大きくて、ちょっと私は唖然としたんですけども、そんなようなことでお願いします。

(事務局)

医療福祉についてはですね、総合計画でも載せないとかそういうわけではないんですが、重点的なところではこの 3 つというところでちょっと町長の思いとかもありますのでちょっと取っ掛かりの部分でわかりやすく伝えたいというところでそういった 3 つを挙げたというところであって、やらないわけではないというところであります。医療福祉についてはこの 24 の因子をご覧いただいた中でも、松川町のこの強みとして、ギリギリですけど強みとして載っているという部分もありますので、ここのところを疎かにするわけではないというところだと思います。

ただ、やはりこの医療福祉の分野というのは、保健福祉課の方で健康まつかわ 21 であったりとか、地域福祉計画といったような計画もあるということもありますので、メインはやはりそういったようなところに具体的な施策というのを落とし込んでいってもらいつつ、そういったような取組みが、このウェルビーイングの観点において、ここの仕様が良くなっているかどうかというのをしっかり総合計画の方で管理していくっていう流れで持っていけたらなというふうには考えているところです。ただ、PR しないといけない部分ってのは、その福祉施策の中にもあると思うんですよね。検診の受診率だったりとかがあると思うんですが、そういったようなところで、その担当の保健福祉課の方からしっかり PR の意味で総合計画に載せてほしいという話があれば、そういったところもしっかりこういったところで管理していくというやり方はあるかと思っていますので、しっかりとバランスを見ながらやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。次ですね、すいません地域の繋がりというところですね。今日の資料に、前回の振り返りとしての評価のところ、満足度ってところが低いというご意見があったかと思うんですけど、おっしゃる通りなんです。すいません、すぐに出せなくて申し訳ないです。ちょっとホームページから引っぱればなんです。

これですね。前回の、今の総合計画の政策の重要度、満足度というのを、さっきのウェルビーイングアンケートと同時に町民アンケートでやらせていただいたところです。その中で高坂さんがおっしゃったのは今ここですね。この持続可能な自治会組織というところが、重要度が偏差値 20 なのでそんなに高くないし、満足度についても 50 を切っているの

で低いよねという、そこの部類に入っていると。一方で、これをウェルビーイング視野のアンケートで置き換えると、地域の繋がりというところが関連しますけども、もう 100 点満点を超えているような点数を取っているという状況ですね。ここは何でこの差があるかというところですが、やはりこれは全国で偏差値を並べたものになるんです。全国平均が 50 となる中で、松川町は偏差値 80 を超えるところを取っているという形になりますが、住民の方々は、このアンケートにおいて、そのアンケートの内容というのは、ここの部分はこれです。地域の繋がり、私は同じ町内に住む人たちを信頼している社会関係資本が出来上がってるとか、地域活動が盛んであるとか、困ったときに相談できる人が身近にいる、とかそういったような内容で地域の繋がりというのを測っているということなんですよ。なので、ちょっとこの自治会問題とかそういったようなものを、この自治会という制度からちょっと離れたところで地域の繋がり測っているという捉え方もできるってことなんですね。なので、自治会の問題とこの地域の繋がりっていうのはニアイコールかもしれないが一致しているというわけではないので、そこら辺の問題については、やはりこのウェルビーイング指標っていうところに頼らず、先ほどお伝えしたこの施策を考えていく上での、これですね、基本構想の設定方法の中の、各課で特に力を入れていく項目であったりとか、あるいは今の計画でそういうような評価をもらっているの、それを改善するという意味での取り組みというところで、落とし込んでいく必要があるのかなというのを検討していきたいというふうに考えます。ウェルビーイングってとっても便利ではあるんですが、たまにそうやって現場とは違ったところで点数が出ているというところがあると、一応ご承知おきをしていただけたらと思います。

（委員）

ウェルビーイングの指標が出ておりますけれども、実際に関わられた地域づくり会議の皆さん、この結果をご覧になってどういう感想を抱かれたのかなと、個人的な住むところにもよりますし、個人的な感想等もあるんですが、さっきされた大橋さんでも結構ですけども、どんな感想というか、これを見てどういう感想を抱かれたかなというふうなことをちょっと思っております。というのも、この後にお話しいただくいろんなことですね、取り組みの経過等にこれがどういうふうに反映されたかっていうところがちょっと思うところでありまして、例えば、そこにずれがあって、参加された方のずれがある中で進められたのか。それか、これをもうウェルビーイングの指標をもとにして、皆さんがそれに選任のご意見ですので、そんなに大きな差はないのかなとは思いますが、これを指標をもとにして皆さん考えられたのか、それとも自分の思いを結構反映された中で進められたのか。

（事務局）

地域づくり会議の中においてのこの指標の活用、感触はどうだったというような話かと受け止めました。そうですね、とりあえず、先ほどからお伝えしているとおり、このアンケート結果、このグラフというのを話し合いの場に持って行って、これを見れば誰もが松

川町は今こういう状況なんだということがぱっと見て、細かいところはわからないけどぱっと見こういう点弱いねとかわかるよねというところで話題提供をさせていただいたつもりであります。ただこれを念頭にネタ出しをしていきたいと思いますというふうにやらせていただいておりますが、やはり思いを持った皆様でございますので、こういうふうになっているけど現場としての感覚としてはそうじゃないよねというようなご意見ももちろんありましたし、ただ、おおむねは思ってた通りだなというような感じでしたよね、でしたねとか振っちゃいけないんですけれども、やはりこれから大事にしていきたいこの自然景観であったりとか、あとさっきも公共交通言いましたけど不便だよねとか、そういったようなところの感覚で、そういったものをこういうふうにしたらいんじゃないのというご意見なんかも頂戴できたと思っておりますので、会議の中の議論で活用できたかなというふうに事務局としては思っております。

（委員）

総合計画の地域づくり会議に今まで4回かな、参加させていただきまして、まずですね、進め方としては毎回テーマ、子育てだとか、仕事雇用、移住・定住っていう各テーマに沿ってですね、議論を交わしたんですけれども、毎回必ず、今事務局が説明されたようなアンケート結果を丁寧に説明された後に、実際それを皆で共通認識を持つての意見交換という形だったんですけれども、でも実際参加していた私からすると、何ていうか本当に結構思いを持った方が多くて、個人的な思いが出しやすい雰囲気の中で、多分役場の方が想定されていた以上のいろんな多様なアイデアが出ていたんじゃないかなっていうのはちょっと客観的には感じていますし、割とチームごとにかかなり盛り上がっているところとか、意見が白熱しているような雰囲気もあったので、なんていうか自分事になっているような方がかなり多く見受けられました。中には、若い子がこういう会議を自分たちでも企画してみたいとか、そういった意見が若い方から出ていたのも、これはすごく一つ価値のある成果なんじゃないかなっていうのは客観的にすごく感じましたので、ただやっぱり事実、データでのごく、なんだろうな、ふわっと何かテーマを設けて話すっていうより、きちんとある事実に基づいての意見交換というのは非常にやりやすく、なんか再現性とか実現性の高いアイデアが出ていたんじゃないかなっていうのを非常に感じました。

（委員）

今回はこれ見とると、今まで総合計画にはもう2回だか3回、前回は出なかったけどその前は出ているので、その前の計画を見ると、何か結論ありきの、今度もなんかその、何とか難しい言葉で言われたり、町長の出している課題が4点だかあって、それを重点にやっていると。ということは、他のところはまちづくり会議のその方の種の検討課題に入っとらんと。ということは、今回の出してくる内容がこの委員会の質問に出てくる内容というのは、町長の意向にしている4項目だか3項目かな、それと課長の言うウェルなんか言う難しい言葉が主体であって、何か総合計画としてこれが本当に成り立つものなんだか全体見て、今までの総合計画立てたときの経過を見ると、全体を見ながらやってきて、その

中でいろいろなビジョンを出して、これから計画を、夢の絵を全体で描いたような気がするんですけど、なんか今回の、これだけの、まちづくり会議はこれで4回で終わりかな、4回 8月のやつで終わりのような気がするんですけど、ということはまちづくり会議というのは、この段階でもう結論が出ちゃって、他の分野、福祉だとか他のところは検討はしないでいって、これが町の総合計画のあと5年、4年だかの指針になるという、基本的なものがこの課長の言うセリフで1個で終わっちゃうということがちょっと懸念されるんですけど、これでいいものなのかどうなんだか、議員さんたちのとか、今までまちづくりに関わった方々の意見を聞きたい。

(委員)

特に関わったというわけではないんですけども、今までの総合計画のいろいろ網羅的に進めてするとか作成されてきたのに比べると、個別計画の中で謳っていくんだと、そういうお話でしたので、今までとはまたちょっと、なんていうかダブるといって、そういう部分がなくてすっきりと作成をしたいと、そういうお考えなんだろうと思いますけれども、やはり紙に書かれる個別計画なんていうのは影に隠れてしまって、やはりその総合計画というものだけを見た場合に、え、と思うような気がいたします。先ほどからの説明の中でね。もう少し工夫する必要があるんじゃないかなというふうに思います。作成の仕方についてもきちんと、どういうふうなこれからもこれからの個別計画なりにどういうふうに図で示しても真なるものと、じゃあ基本計画はどのぐらい、例えば福祉の分野でね、障害福祉だとか高齢者福祉だとかいろいろありますけれども、そういう個別計画を謳うんだというところその説明はどうかでしていただかないと、ちょっと消化不良になるなというそんな気がいたしますがね、大石さんのおっしゃることは私も同調いたします。それとですね、3点の大きな3本柱を出した、子育て、シゴトづくり、移住・定住。子育てとシゴトづくりはそうだと思いますけれども、移住定住によってですね、町民がどういう文化を得られるのかという、移住してこられた方はそれは松川町を望んで来られるので幸福感を感じるでしょうけれども、既存の町民がどういうふうにそこでウェルビーイングとのね、関係性があるのかという、これは非常に何かちょっと疑問に思うんですけどね。そんなことでちょっとお答えになっておるかどうかわかりませんが。

(事務局)

今回の地域づくり会議については子育て、シゴトづくり、移住・定住ということで、議論を重ねてきているという中の、個別計画は個別計画があるからいいじゃないかって話じゃなくて、もちろん福祉ですとかそういう分野も基本計画の方はしっかり立てさせていただいて、第6次の総合計画を策定していくというようなところは、ここに地域づくり会議で何で出てるかっていうのも、もう1つですね策定委員会というのがあって、役場の職員も全部入ってるんですね。その関係ある職員も入ってきて一緒にやっています。ですからそういうところも汲んでですね、基本計画の方は作り上げていくというところで考えております。今移住・定住のお話したんですけど、たまたまですね、我々課長連中、今町政懇談

会があって、各区をまわっているんです。行くと必ずと言っていいほど移住・定住施策を何とかしろと。要するに、自分たちの住んでいる地域を持続可能なものにするというか、ここで若者が少なくなってしまうたりだとか、そういう現状があると。ですから町の方で移住・定住施策を何とかしてほしいという声を各区でいただいているような現状にあります。ですから、どれも総合計画の基本計画大事なんですけれども、町民の皆さんからもこういうご意見いただいておりますので、ここはしっかりやっていきたいというように考えております。ちょっと長い話になっちゃって申し訳ないですけど、総合計画って自分も役場に入ってからずっともちろんあるんですけど、平成 23 年には、あってもなくてもいい、言い方ちょっと良いかわからないんですけど、そうなるって中で、自分の仕事の仕方って総合計画ができて、今 5 次があるんで、じゃあ席に着いてまず総合計画を開いて、それに基づいて仕事をしてるっていうわけでもないんですね。何かルーティンワークはいいとして、何か新しい仕事をしなければいけないってときに、じゃあ自分の今これからやろうとしてる仕事っていうのは、この総合計画に合ってるのかどうかっていうところをちゃんと見て、とか何か困ったときにちょっと立ち止まって、ちゃんと自分の今やっていることって総合計画に合ってるのかっていうところを確かめながらやってきたんです。ですけど、ただ自分たちがやってる仕事が本当に地域の人たちが求めている仕事なのかっていうところはイコールじゃないと思ってるんですね。自分が何か仕事としてやったって、自分としては成し遂げたんだったことが、地域の皆さんにとっては本当に良かったのか、これやって良かったのかって思えるのかどうかっていうところが、私としては見えてなかったっていうところの、今回のウェルビーイングという言葉に全部を集約してるんですけど、今回担当たちがやろうとしてるってことは、これで令和 5 年度の 12 月にアンケート調査してスパイダーチャートが出来たって中の、これからの 3～4 年間、毎年調査をさせていただいて、そこにまた前年度のものに当てはめて、住民の皆さんの意識というか、そこがどう変化していくのかっていうところをちゃんと見定めた中でやっていきたいっていう、それが可視化という見える化。自分たちとしても結果を見て、じゃあまだまだ仕事して少ないところ、偏差値として少ないところはどんどんやっていきましょうというような見方ができるので、今回、私ももう 4 月から来て、ウェルビーイングって何なんだと思ったんですけど、説明もらって、そういうことならいいんじゃないと思って、賛同してやってるところもあるので、今回はこれからの 4 年間というのは、これを元にやるんですけど、皆さんから毎年調査をしながら、これに当てはめて、どう変化していくんだっていうところをちゃんと見ながらやっていくっていう新たな取り組みでもありますので、そんなところでよろしくお願いしたいと思っております。

（委員）

話をお聞きする中、やっぱり望まない孤独と孤立を町民一人ひとりの方の孤独と孤立を潰していくというか、そういった町政にしていく、そういった町にしていくという決意のものの、こういったウェルビーイングかと思います。悪の本質は何かっていうのは、やっ

ぱり分断であるということをお聞きしたことがあります。逆に、善の本質は何かっていうと、結合である、人と人を結んでいくことが善の本質であるっていうようなことをお聞きしたことがありますので、是非また町民の方が町民1人であれ、家庭であれ、地域や職場や行政と結び付いていけるような行政と、またそれを具現化したのがこの、「いっしょに育てよう 一人ひとりが輝く 笑顔あふれるまち まつかわ」かと思しますので、またそういったスローガンのもと、っていう理念を最初に持ってきて、それを各個別計画に落とし込んでいくのかなっていう、この理念のもと各個別計画を立てていくのかなっていう印象を受けましたので、そういったのを進めていただければと思いますし、またウェルビーイングと親和性が高いかはあれなんですけど、自分の好きな言葉のレジリエンスという言葉ありまして、また困難に打ち勝つ力という訳になりますけれども、多分これ指標も指数もないですし明文化もできないと思いますけど、またそういった概念というか、思想もまた共有しながら進めていっていただければ嬉しいかなと思います。

(委員)

今回評価するっていう部分で、子育て、シゴトづくり、移住・定住を会議でも話してきたんですけども、まずちょっと共有としては、移住・定住っていう部分も、ただ若い方とかターゲットそういう子育て世代というものに限らずですね、例えばシニアの世代になってからの移住だとか、松川町に暮らしていれば就活もしやすいだとか、ここに暮らせばなんかとても幸せな最後を迎えられるんじゃないかっていうことを感じてもらうことも大事だよっていうような視点も大いに混じった意見交換もありましたので、移住・定住だとかシゴトづくりとか言葉だけ切り取ると、何かその、人によってはいろんな印象を受けるんですけども、いろんな視点からこれを施策にフォーカスすると、こんなところに効果があるよとか、こういう方たちがもっと幸せになるよっていうことをメリットという言い方だとちょっと軽々しいかもしれないんですけども、計画の中で丁寧に説明していただくよりもその真意が伝わるんじゃないかなっていうふうに感じました。それで、ちょっとこの次にお伺いしたいことなんですけれども、結構子育てとか健康福祉とか、自分の今のまちづくり将来像に向かってですね、各課の方たちが一生懸命取り組まれてるっていうこともすごく日々実感してますし、地域の皆さんの民間の団体とか企業さんもそれぞれすごく思いを持って活動されてる。松川町はそういうことがすごい活発でいいなっていうのを感じてはいるんですけども、やっぱり例えば、どうしても役場の方に何とかしてほしいとかそういう意見もたくさんあると思ってまして、ちょっと見てるとですね、課で抱えきれなくなってる部分とかそういうものってすごくあるんじゃないかなと。それで、やっぱり思いがある町民の意見となかなか向き合う時間がないとか、大事なことだと思ってても何となく先回し後回しにされてしまうっていうことも結構多いんじゃないかなというふうに見受けられます。これ計画ができた後にですね、実行、実現を目指して動いていく際にですね、行政の中の課のその構造自体も時代に合わせて変化させていく必要があるんじゃないかっていうふうにも感じてます。必要な課とか係を増やすとか、そこの人員配置を

変えるだとか、そういうところも縦割りじゃなく縦割りではもう対応しきれなくなってくる部分って結構あるんじゃないかなと思うんですけども、来年度以降ではそういう部分というかも検討に含まれてくるのでしょうか。

（事務局）

課の編成等、総合計画に合ったというか、今の時代に合ったというか、そういう編成なんですけれども、事務的なことを言えば条例の部分もあるので、議会の議決でももちろん得なければいけなかったりもするんですけど、これまでの歴代の町長、それぞれの町政を見ていく中では、それに合った課の編成をしてきていると思ってます。例えば、4月の時点でもリニア対策課がなくなったりだとか、そういうことしてますので、ちょっと自分がこうしますとは言えないんですけど、この策定したタイミングで何かあればもちろん課の編成だとか、体制作りっていうものはしていきたいと思ってます。業務量ももちろん人も増えてはいるんですけど、業務量も増えてもいるんですが、そこはしっかり精査は今しているというところもありますので、皆さんのニーズに合ったやり方を少しでもやろうとは、これに限らずずっとしている状況ではありますが、なかなか見えないんで申し訳ないんですけど町としても動いているというところではありますので、よろしくお願いいたします。

（委員）

ありがとうございます。大変理解できました。やはり私達も行政任せではいけないというふうには思ってます、やっぱり民間で一生懸命やってるいろんな分野の団体の方もいらっしゃるので、そういう方たちもすごく一生懸命やりつつ、双方のコミュニケーションが取りやすいような形にはしていきたいなと。やっぱり、例えばそうですね雇用とかシゴトづくりに関しては、もちろん企業や個人がしっかり考えていくこともですし、商工会さんとの連携だとか、そういう部分も自分たちも考えていかなければいけないというふうには思ってますので、そういうところで自分事にできる人が1人でも増えてほしいなということを切に願って、良い計画になるといいなというふうに考えてます。4年前の改定版のときに私もこういう会に参加させていただいたんですけども、当時はまだSDGsがちょっとずつ浸透してきてるかなという頃でした。なので、今回のそのウェルビーイングという言葉は、きっとこれからもっといろんな方が使われていく言葉にもなるのかなと思うので、それをいち早く取り入れられてるっていうことは、自分がすごく町としてもすごく良いことなんじゃないかなというふうに感じてますので、ぜひ良い計画になるように進めていただけたらなというふうに思います。

（委員）

ウェルビーイングの中の移住・定住の中で、ここに人口増加局面というのと人口減少局面という2つがありまして、これに関わってくることだと思うんですけども、町としては今人口が減ってます。どんどん減ってるんですけども、人口を増やす方を重きに置いてるのかどうかっていう、そういうところをちょっと知りたい。それはなぜかって言うと、人口が増える、若い人が入ってきて仕事をやってくれば税金も増えると。いろいろやるにつ

いても、どっちにしてもお金がかかる。なので、それもちよっと細かいことですが、考えていかないと、こういうなんていうか、理想っていうか、こういう掲げて基本、これは確かに基本なんですけど、そういうことも個々に野望を、それぞれの課のも考えていただいて進めていかないとなかなか現実的でないと私は思うんですね。そこら辺もうちよっと役場側もちよっと町民にアピールして、こういうことをやってますと、努力してますっていうようなことを。そうすると町民も結構、こういうことやってくれとるんだっていうことで、そうするとありがたいなという、それもこういうことに繋がっていくと思うんですね。せつかく調査をやってみて、私ちよっと見させてもらったんですけども、弱い部分を結局いくらかでもベースを上げてあげれば町民の幸福度も上がるんじゃないかなとちよっと思うんですがいかがでしょうか。

(事務局)

移住・定住のところは便宜上、住宅環境というところがウェルビーイングに関わるころだよねっていうふうに私は考えていますけども、これそういったものといえば総力戦だと思うんですね。この町に住みたいと思える資源を最大限にPRすることで人が集まるし、今住んでる人たちだって住み続けたいっていうところがあったと思います。地域づくり会議の議論でも人を呼び込むにしたって、こんな脆弱な公共交通じゃ駄目だよねとかそういうご意見もいただいたし数字はやっぱりこういうふうに出てるしってのもありますし。そういったところで結局、重点を3つ挙げてはいるんですが、移住・定住とかそういうの考えても結局全部やらなきゃ駄目だよねっていう話にはなってくると思うんです。なので、やっぱりその医療福祉とかそういうものだとももちろん、計画にちゃんと載せていかんといけないとかそういうことも起きてくると思いますし、そういった形で住み続けたいと思えるっていうところがやっぱり外から人が来てくれるっていうところに繋がると思うので、そういった意味で総力戦というところを役場で考えていかないといけないなっていうところなんです。

(事務局)

補足すると、まず今5次の総合計画の途中なんですけど、5次の総合計画の中では人口増は想定してないです。人口減なんだけれども、そのスピードを落として、急激に落とさない、緩やかに落としていこうっていうその施策をやっているという第5次総合計画だったんですね。ですから6次はまだ出てないんですけど、まずはそこは踏襲した考えでどうやっていこうかなっていうところになってます。全国的に見ても、今人口はどうしても減ってしまっているんで、増えたとしてもどっかの取り合いになってるんだろうなと思ってます。その中で、町の特別な課題ってのがあって、その人口減の中で、なぜか子供の数が少ないんです。

他の近隣の市町村に比べて子供の数がとてつもなく少ないんです。それすごい問題だと思っていて、例えば中央小はないけど北小はどうなっていくんだっていうところになっていくんですね。ですから、その部分でも総合計画は抜きとして、町長の思いとしては、まず

は子供を増やす。生産年齢人口をどんどん増やしていきたい。そのためにはどんな移住・定住施策をしていくのか。特別な何かサービスを受けられなければ、今移住はしてこないんだと思っている中の、じゃあっていうところでやりだしたのが給食費の無償化だとか、あと保育園の頃からALTを活用して英語教育に踏み込んでいくだとか、そういう特別な部分です。昔、陸上が強いときに、ここで陸上を教わりたいてって言って移住してきた人たちがいるんですね。そんなような感じでしょうかね。教育移住とかも起こっているので、ここで特別なサービスを受けるために移住してくるってというようなことやっていきたいという事は今、町長はよく、しきりに言っているところですね。ですから、それに向けて自分たちがどうしていったらいいのかってところは、今の仕事としてはやってるっていうところでもあります。

(委員)

先ほど、福祉のつていうことを発言された方もおられましたけど、やはりこの3本柱で行くつていう表題つていうか書かれてあるのを見ると、どうしても福祉面に力が入っていないのかなというふうに先ほども個別計画でというお話でしたけれども、是非、共生社会の実現とかねそういったことも、もう1個付け加えていただけないでしょうかね。かなりそうすると、全般的になんていうんですかねバランスをとれたものになるような気がしますね、子育てがあるんですからね。

(事務局)

ありがとうございます。御意見として頂戴しておきます。この段階でやりますつてことは、今の段階でちょっと申し上げられないんで、また検討させていただきますのでよろしくお願いいたします。

(委員)

将来展望の夢はおおいに描けると思うんですけども、実際これを実行していく上で、財政との擦り合わせができないと絵に描いた餅になってしまうので、財政状況も加味した中でのこういった方向性を出し合うことが良いのではないかなと思ってますので、ご意見をお願いします。

(事務局)

ありがとうございます。この表つて多分財政サイドでも活用できると思うんですよね。ここの弱い部分を伸ばすためにどれだけお金を入れれないといけないのかとか、そういったようなときに議論の場でもこういったものつて活用できると思いますし、もちろん今までの反省も踏まえながら実効性のあるところは、念頭に置いておきたいと思っておりますので、そういったような要素、お金の面つてところもしっかり財政と話し合いながらやっていきたいと思っておりますので、ご助言ありがとうございます。

(委員)

皆さんの話聞いててなんですけども、まちづくりセンターということで、移住・定住つて一番大きなところだと思うんですが、係長もさっき言われたように、はっきり言って取

り合いなんですよ。近隣とのね。ふるさと納税もそうなんだけど、結局取り合いしてるだけ。そういういろんな施策基金も大事なんですけど、一番わかりやすく考えて、今いる子供たちが将来帰りたくなる町。1回外に出て帰りたくなる町。町長そんなこと言ってたと思うんですけど、そういったことを念頭に、皆さん子育ての最中だと思いますし、自分たちの子ども、孫たちが1回外に出て、やっぱりあそこ良かったよねって、そういった町を念頭に置くっていう1つ、移住・定住っていうことに大きく繋がるんじゃないかなと思います。

③これまでの取組み経過報告

④計画の方向性に関する意見交換

質疑応答

(事務局)

今、非常に闊達なご意見をいただいた中で、協議事項3を飛ばしてこの4の計画の方向性に対する意見交換ができたのかなというふうに認識をさせていただきました。

(8) その他

(事務局)

今後の予定になりますが、一応この策定委員会については3回から4回を予定しているところございまして、次回しばらく間が空きますが、原案の検討のお時間を頂戴するところ、次回10月末頃を予定しております。必要に応じてまた重点施策の関係とかですね、必要に応じてその前にも開かせていただく可能性もありますが、一応としては10月末を予定しているということですのでよろしくお願いしたいと思います。

(9) 閉会

(事務局)

長時間にわたり活発な意見、大変ありがとうございました。今回第1回なんですけれども、まだ数回ございますので、またこちらから計画を含めた中でご説明をさせていただきますので、今後ともよろしくお願いいたします。また本日お足元の悪い中またお仕事お疲れの中を参加していただきましてありがとうございました。台風も近づいてきておりますので、どうかお気をつけてお帰りください。

それでは松川町総合基本計画審議会第1回これで終わりにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。